

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有)歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	愛媛県松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成25年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 6 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲に田園が広がり、のどかな情景の中で、気候に合わせて、散歩に出掛けたり、庭で体操をしたり、また、畑での農作業に励んだり、おひとりおひとりの能力や身体状況に合わせた毎日を送れるように努めている。地域との交流を深めるために、ホーム主催の夏祭りを開催したり、クリスマス会にきていただいたりして、利用者の皆様と交流していただいたり、職員との関係性などを見ていただく機会としてご意見もうかがっている。今後も新しい理念のもと、職員の意識を統一して利用者が安心して過ごせるホームでありたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から近く、田園に囲まれた環境の中にあり四季の移り変わりを肌で感じることができる。事業所の夏祭りには利用者の家族や多くの地域住民の参加協力を得て開催しており、100名以上の参加があるなど地域での一大イベントとなっている。また、地域行事に積極的に参加して、地域住民との交流を深めている。事業所では利用者に対して芸術療法を取り入れ、作品づくりを通して落ち着きある生活を送れるよう取り組んでいる。利用者は芸術療法での作品づくりや敷地内の畑で野菜づくりなどを楽しんで行っている。代表者や職員は利用者一人ひとりの思いを大切に接しており、自分らしく達成感を持った生活が送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 高須賀 幸子

評価完了日 25年 5 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 昨年の外部評価時、ご意見をいただき、達成目標として見直しに取り組んだ。 1、ありのままを尊重し、思いやりを持って、共に歩む 2、個々の暮らしと、地域の交流 3、安心できる毎日 これを全職員で共有し実践する</p> <p>(外部評価) 開設当初に代表者が作成した理念を昨年見直し、今年5月にできたばかりの理念である。職員一人ひとりが事業所の介護やケアについて考え、半年をかけて職員全員で話し合い作成している。理念は玄関、リビング、事務所などに掲示して職員全員で共有し実践できるよう努めている。</p>	職員全員の思いの詰まった理念を、実践して取り組めるよう望みたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事・ホームの行事（夏祭り）などは、互いに行き来し合い、利用者地域の方が顔なじみになり、声を掛けあえる関係にもなっている。また、散歩途中の方がトイレを貸してくださいと立ち寄られることもあり、地域の方にとっても、入りやすい場所になってきているのかなと思う。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域行事には積極的に参加している。事業所の夏祭りは、利用者の家族やボランティアグループ、高校ボランティア等の協力を得て開催しており、利用者の家族や地域住民など100人以上の参加者で賑わいながら交流をしている。事業所は「シニアまもるくんの家」として登録し、地域に貢献する取り組みをしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の小中学校の職場見学や職場体験の受け入れを行ったり、城南高校の実習、ボランティアなどで認知症について学んでいただける機会を作っている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事への参加の機会を多く設け、利用者さんと、職員の関係性を見ていただいたり、防災訓練でも地域の防災士さんの参加があり、アドバイスを頂いている。備蓄倉庫に関しても、防災士さんの意見を参考に備蓄用品を準備している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には市担当者、地域包括支援センター職員、町内会代表、ふれあいサロンやボランティアの方などの参加を得て開催している。会議は避難訓練や認知症の研修会などと一緒に開催しており、多くの参加者を得る工夫をしている。事業所の活動や状況報告、課題等も話し合っており、参加者からは色々な意見が聞かれる。管理者は家族に参加を呼びかけているが参加は少なく、家族の参加が得られるよう検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課・生活福祉課・高齢福祉課など、必要な項目についての相談を行いアドバイスをいただいている。また、夏祭りなどの行事にも介護保険課の参加をいただき、利用者との関わりなどみていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市職員が参加しており、利用者の相談など連携を深めている。日頃から気軽に運営の報告や相談をするなど良好な関係を築いている。また、市やグループホーム連絡協議会等が開催する研修に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は日中は開錠しており、出入りはチャイムで確認している。拘束の勉強会も実施し、拘束をしない方法を検討している。状況により主治医にも相談し、必要があれば、ご家族との話し合いを行い、同意書を書いていただき実施する事としている。</p> <p>(外部評価) 事業所全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面を考えベッドの柵など一時的に必要な場合は主治医に指示をもらい、家族に同意を得て行うこともある。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。職員は外部研修などにも参加して理解を深めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を行い虐待の知識を深めるようにしている。少しの傷、内出血など発見すれば、原因を究明し、全職員に周知し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホームの勉強会で何度か勉強しているが、実際に、制度を利用する対象者は現在いない。対象者が出来た時に生かせるようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、項目ごとに丁寧に説明し、同意を得ている。また改定の際にも、利用者ご家族に対し、1家族ごとに説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回家族会を行い、事前は無記名アンケートも実施し、意見も書いていただくようにしている。その時の意見をもとに要望を伺ったり、ホームからの返事としての報告をさせていただいたりしている。また家族会の報告は運営推進会議・職員会議でもしている。	
			(外部評価) 利用者には日々のケアの中で意見や要望を聞いている。また家族には家族会や訪問時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方で訪問が少ない家族には電話等で連絡したり、アンケートを送付したりして把握するように努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 年2回 改善シートを実施し、日頃気になっている事、改善してほしいことなど記入し、代表者に提出している。代表者は、全員の内容を検討し、職員会議の際に意見に対して回答をしている。代表者も看護師として勤務しているため、日頃の利用者さんに関することはその都度相談できる体制である。</p> <p>(外部評価) 管理者は毎月のスタッフ会議、パート会議などで職員の意見や要望を聞くように努めている。意見や要望が出された場合はその都度対応している。代表者は看護師で事業所内の仕事にも従事しており、話しやすく職員から頼りにされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年2回 職務の自己評価を行い、代表者に提出し、評価をしている。日頃の勤務状況などと自己評価により、給与・一時金などに反映している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修案内は全員に回覧し、受けた研修があれば、費用の負担・出勤扱いでの受講など負担のない環境を整えてくれている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣のグループホームなどと、定期的に勉強会を行い知識の向上に努めている。包括支援センターでも交流会があり、テーマに合わせ参加スタッフを募り、交流する機会を持っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 最初にご家族が相談に来られますが、入居の前には必ずご本人と面談させて頂き、ご本人の気持ちを受け止めるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族は困った状態で相談にこられており、まずは十分に話をうかがうように努めている。その後ゆっくり時間をとり不安や要望など聞き取りするようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の話などから、ご本人の状態を確認しながら、まずどんな支援が必要かをみきわめ、徐々にほかに必要な支援はないか、探っていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 居室でひとりである時など、お茶を持って訪室し、なにげない会話をしたりする時間を作ったりして、孤独にならないように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会が少ない方もいらっしゃいますが、来られた時には居室でゆっくりできる環境を整えたりして、ご家族との距離が離れないように努めている。また、夏祭り・クリスマス会などの行事参加をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人、親せきなど面会もあり、帰られるときにはまた面会に来ていただくよう声掛けをしたりしている。懐かしい場所に行きたいなどの要望があれば個別支援で対応している。 (外部評価) 事業所には利用者の知人や友人の訪問が多く、職員は温かく見守っている。利用者の希望するお墓参りや馴染みの場所に、家族の協力を得て外出できるよう職員は支援をしている。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士でもお互いのできることを、できないことを分かり合い、声を掛けたり助け合っている。歩行の不安定な方の椅子を引いてあげたり、食事前の準備、手の消毒、下膳等、利用者同士、支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が亡くなられて、サービス利用終了となられても、その後もご家族さんの来所があり、利用者の方に気軽に声を掛けていただいたり、お礼の手紙などもいただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 飲み物を選んだり、外出先を決めるなど、その都度確認したり、日々の暮らしの中で、利用者自身が決めたり選んだりする場面を作っているが、ご自身で判断したり意思表示の難しい方についても工夫が必要と思う。	
			(外部評価) 職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取るよう努めている。困難な場合は家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作を汲み取り、職員は「利用者がどう思っているのか」を常に考えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は個々の生活歴の把握に努め、それをふまえて日々の支援に繋げられるよう努力している。入浴拒否の方に対して、デイサービスでの取り組みを確認して対応したり、ご家族の話から今までの暮らしぶりをとらえていくように努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝、夕の申し送り時、食事、睡眠、排泄を確認、その日の過ごし方、ご本人の状態など、その日のチームで確認している。できること、できないことを毎日の生活の中から見つけていくように努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者との日々のかかわりの中から、思いを探ったり、ご家族の意見を聞くなどしている。ご家族とは、面会時に日々の様子をお知らせしたり要望などがなくかかろうかがい介護計画につなげている</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合いを行い介護計画を作成している。また個別記録の様式を工夫し、介護状況が把握できるよう努めている。毎月モニタリングをして評価を行っている。職員全員の意見も聞き取り反映できるよう、ミーティング時の話し合いや記録など確認を大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 記録の重要性、内容、記入方法については勉強会でも取り上げているが、職員により表現力などが乏しいように感じる。介護計画にも反映する記録であるため、全職員のレベルアップが必要と思う。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) それぞれのご家族の状況に必要な支援に柔軟に対応できるように努めている。最近では、娘さんが出産され、赤ちゃんの面会に行きたいとの要望があり職員が付き添い行くことができた</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して、地域の方との交流がある。ホームや城南高校での防災訓練・ホーム内行事等で手品や太鼓のボランティアの来訪がある。散歩など外に出る機会を積極的に作り外部の方と触れ合うことを大事にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回、定期的に主治医の往診があり、利用者の状態把握をして頂いている。急な発熱等、容体変化があるときには、ご家族に連絡の上、かかりつけ医への受診支援を行っている。	
			(外部評価) 家族の希望によりほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。協力医による月2回の往診等のほか、状態変化時など迅速に対応できる体制が整っており、利用者や家族は安心して利用することができる。協力医以外のかかりつけ医や専門医は職員が同行し、安心して受診することができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 代表者が看護師として勤務しており、日頃から、個々の利用者について、職員がすぐに相談したり、指示を受けたりできる体制にあり、かかりつけ医への連携に繋げている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホーム独自の情報提供書(経過表)を持参し、ADLや入院に至る経過がわかるようにしている。病院に伺い病院関係者と相談しながら、ご家族の要望も伺いながら早期退院となるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化しターミナルを検討する時期となれば、主治医とご家族、職員で話し合いの場を持ち、ご家族の意向を確認し、現状での対応できる状況を判断する。ご家族、職員と会議を行い、支援につないでいる。	
			(外部評価) 入居時に、利用者や家族に看取りの方針を説明し、意向を確認している。利用者の状態変化時の段階に応じて、医師、家族、職員で話し合いを重ねながら、関係者全員で支援していくと確認し共有している。夜間の緊急時には、代表者が事業所に待機し、対応できるように体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的にAEDを使用した訓練を実施し、急変時に落ち着いて行動できるように、努めている。ホームにもAEDが設置してあり、地域の方にも周知していただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回訓練を行っており、運営推進会議でも避難訓練を行い、消防、地域の防災士から意見や指導を受けている。訓練の際にはその都度設定を変えて行っているが、実際の災害時には訓練のようにスムーズにはできないであろうとの不安はあり、訓練の回数を多くする必要があると思う (外部評価) 年2回、消防署や警備会社の立会いのもと避難訓練を実施している。また利用者の各部屋には防災ヘルメットの完備や備蓄等も用意している。利用者の安全が確保されるよう職員全員で防災意識の再確認を行っている。訓練は地域住民と一緒にしているが参加が少ないため、多くの住民を交えて訓練が行えるよう声かけをするなど努めており、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組む姿勢が伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 介助の方法、一つ一つの接し方にも尊厳の気持ちをもつように心がけ、特に声掛けは一人一人の生活歴などにもかかわる部分があり、気をつけている (外部評価) 職員は日々の生活の中で、利用者の不快感や羞恥心に気を配ながら、声かけや対応をするように心がけている。また、利用者の尊厳を損なうことのないよう対応しており、一人ひとりの人格を尊重して支援している。利用者の希望に応じて、同姓介助するなど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分からはなかなか要望や訴えができない方が多い為、選択肢をだしたり、表情を観察したりしながら、感じ取るように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や朝食の時間などはその日の体調に合わせてたり、日中の活動も利用者ひとりひとりの意向に合わせて行うように努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服を自分で選んだり、洗面所ではブラシを渡し、鏡を見ながら髪を直したりできるように支援している。訪問理美容により、2か月に1度散髪にきていただいている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時間が近くなると、自分で動ける方が、自主的にテーブルを拭いてくれたり、ゴミ入れやティッシュを用意してくれ、習慣化している。職員も一緒に食事をとるように努め音楽を流しながら、食事を楽しむように努めている	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。また利用者は食事前になると台を拭くなど、できることを自然に手伝っている。介助の必要な利用者には職員が寄り添い、適切な支援をしている。利用者の好みのメニューを食事に取り入れたり、代表者が作ったおやつを食べたりすることは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量はその都度記録し、必要量摂れているかチェックしている。食事形態も一人一人の状態にあわせて、普通食・刻み食・ミキサー食で対応している。食事量の少ない方は主治医と相談し高カロリー飲料などで補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で磨ける方でも十分でない方は磨き直しをしたり、磨けない方は口腔ケア用のウェッティで口腔清拭を行い、清潔保持している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄時間を記録し、排せつパターンを確認し、トイレ誘導している。夜間もポータブルトイレは置かず、トイレで排泄していただいている	
			(外部評価) 職員は排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するように努めている。夜間のみおむつを使用するなど一人ひとりに合った排泄支援をしている。トイレには利用者の転倒防止や立ち上がりやすいように適切に手すり等が取り付けられ、安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎身体操をしたり、散歩に行ける方は散歩に出かけて体を動かしたり、食事面では根菜などよく使用している。便秘のひどい方は薬を調整する方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応入浴日はきめているが、ご本人の予定や、体調にあわせて臨機応変に対応している。夜中でも、便汚染などひどい方はシャワー浴の対応をしている。	
			(外部評価) 週3回を基本に、利用者の希望により入浴することができる。入浴の苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。浴室にはリフトを完備しており、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や年齢を考慮し、午後には、午睡の時間をとっている。夜間の睡眠に影響のない程度の時間休んでいただいている。夜間には口渴にそなえ、居室にお茶の用意をしている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師・薬剤師と情報交換し、変化があれば報告している。職員は薬の情報用紙を確認し薬の理解に努めている。誤薬を防ぐため、名前、時間帯の確認を利用者・職員間でしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を生かし、畑で野菜を栽培したり、個々の役割として洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭きなど、それぞれのレベルにあわせてしていただいている。また、居室でご家族の持参したおやつを食べたり、庭に出て体操や歌を楽しむこともある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や園庭での日光浴・外気浴などは日常的に行っている。衣類の買い物や、特別な外出（娘さんの出産など）は職員が付き添い個別の外出支援として行っている。またご家族とお花見などへも、ご家族からの要望があれば職員が付き添い支援している。 (外部評価) 職員はユニット毎や年間行事での外出のほか、利用者の希望により外出できるよう支援している。また、利用者は玄関先の庭で、外気浴を楽しむことができる。事業所周辺の散歩時に地域住民と挨拶や会話をするなど、地域住民との関わりが深まるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 消耗品などの購入は立て替え払いでしているが、パン屋さんの訪問時に自分でお金をだし、購入している人もいる。職員が付き添い確認はしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば、ホームの電話を使用し、職員が必要な介助のもと、できている。手紙は依頼があれば、職員が預かり投函している。事前にご家族にも確認はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 整理整頓を行い、清潔であることを心掛けている。室温を適温に保ち、利用者が不快感を覚える事のないよう配慮している。季節の花や、飾りなどで四季を感じていただくように工夫している。</p> <p>(外部評価) リビングの広い窓からは自然な光が差し込み気持ちよく感じられ、日頃から清潔や臭気気をつけており、アロマの香りを楽しめるよう工夫をしている。利用者が芸術療法で作った品々が玄関や壁に飾られて、訪問者の目を引き付けている。リビングや廊下は整理整頓され、環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるような空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 座席の間隔を程良くとり、利用者がパズルや塗り絵など思い思いのことをするのに必要なスペースが確保できています。洗面所前、玄関先などにソファや椅子を配置し、人の気配を感じながら、一人で過ごすことが出来る環境がある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人の身体状況に合わせた家具の配置を行い、安全に配慮している。季節の装飾品や家族の写真、手紙、絵葉書などを飾り居心地の良い空間にするための工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、タンス、ベッドが備え付けられている。利用者の中には、一畳分の畳を敷いて座れるようにするなど、思い思いのレイアウトを楽しむことのできる工夫をしている。また、使い慣れたタンスや小物、仏壇等も持ち込むことができ、家族との写真を飾るなど居心地よく落ち着いて生活できるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各自の居室前に名前と顔写真の入ったプレートをかけ、居室の確認が出来るようにしている。また居室内のタンスやベッドの配置は一人一人の身体状況や動線を考慮している</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有) 歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	愛媛県松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成25年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 6 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲に田園が広がり、のどかな情景の中で、気候に合わせて、散歩に出掛けたり、庭で体操をしたり、また、畑での農作業に励んだり、お一人おひとりの能力や身体状況に合わせた毎日を送れるように努めている。地域との交流を深めるために、ホーム主催の夏祭りを開催したり、クリスマス会にきていただいたりして、利用者の皆様と交流して頂いたり、職員との関係性などを見ていただく機会とし、ご意見もうかがっている。今後も新しい理念のもと、職員の意識を統一して利用者が安心して過ごせるホームでありたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から近く、田園に囲まれた環境の中にあり四季の移り変わりを肌で感じることができる。事業所の夏祭りには利用者の家族や多くの地域住民の参加協力を得て開催しており、100名以上の参加があるなど地域での一大イベントとなっている。また、地域行事に積極的に参加して、地域住民との交流を深めている。事業所では利用者に対して芸術療法を取り入れ、作品づくりを通して落ち着きある生活を送れるよう取り組んでいる。利用者は芸術療法での作品づくりや敷地内の畑で野菜づくりなどを楽しんで行っている。代表者や職員は利用者一人ひとりの思いを大切に接しており、自分らしく達成感を持った生活が送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 25年 5月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 昨年の外部評価時、ご意見をいただき、達成目標として見直しに取り組んだ。 1、ありのままを尊重し、思いやりを持って、共に歩む 2、個々の暮らしと、地域の交流 3、安心できる毎日 これを全職員で共有し実践する</p> <p>(外部評価) 開設当初に代表者が作成した理念を昨年見直し、今年5月にできたばかりの理念である。職員一人ひとりが事業所の介護やケアについて考え、半年をかけて職員全員で話し合い作成している。理念は玄関、リビング、事務所などに掲示して職員全員で共有し実践できるよう努めている。</p>	職員全員の思いの詰まった理念を、実践して取り組めるよう望みたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームでの行事・夏祭りやクリスマス会では地域の方や日頃交流しているグループホームの皆様に参加いただいたり、地域での行事、盆踊りや集会所でのイベントなどに利用者が参加し交流している</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域行事には積極的に参加している。事業所の夏祭りは、利用者の家族やボランティアグループ、高校ボランティア等の協力を得て開催しており、利用者の家族や地域住民など100人以上の参加者で賑わいながら交流をしている。事業所は「シニアまもるくんの家」として登録し、地域に貢献する取り組みをしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の小中学校の職場見学や職場体験の受け入れを行ったり、城南高校の実習、ボランティアなどで認知症について学んでいただける機会を作っている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事への参加の機会を多く設け、利用者さんと、職員の関係性を見ていただいたり、防災訓練でも地域の防災士さんの参加があり、アドバイスを頂いている。備蓄倉庫に関しても、防災士さんの意見を参考に備蓄用品を準備している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には市担当者、地域包括支援センター職員、町内会代表、ふれあいサロンやボランティアの方などの参加を得て開催している。会議は避難訓練や認知症の研修会などと一緒に開催しており、多くの参加者を得る工夫をしている。事業所の活動や状況報告、課題等も話し合っており、参加者からは色々な意見が聞かれる。管理者は家族に参加を呼びかけているが参加は少なく、家族の参加が得られるよう検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課・生活福祉課・高齢福祉課など、必要な項目についての相談を行いアドバイスをいただいている。また、夏祭りなどの行事にも介護保険課の参加をいただき、利用者との関わりなどみていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市職員が参加しており、利用者の相談など連携を深めている。日頃から気軽に運営の報告や相談をするなど良好な関係を築いている。また、市やグループホーム連絡協議会等が開催する研修に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は日中は開錠しており、出入りはチャイムで確認している。拘束の勉強会も実施し、拘束をしない方法を検討している。状況により主治医にも相談し、必要があれば、ご家族との話し合いを行い、同意書を書いていただき実施する事としている。</p> <p>(外部評価) 事業所全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面を考えベッドの柵など一時的に必要な場合は主治医に指示をもらい、家族に同意を得て行うこともある。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。職員は外部研修などにも参加して理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を行い虐待の知識を深めるようにしている。少しの傷、内出血など発見すれば、原因を究明し、全職員に周知し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホームの勉強会で何度か勉強しているが、実際に、制度を利用する対象者は現在いない。対象者が出来た時に生かせるようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、項目ごとに丁寧に説明し、同意を得ている。また改定の際にも、利用者ご家族に対し、1家族ごとに説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回家族会を行い、事前は無記名アンケートも実施し、意見も書いていただくようにしている。その時の意見をもとに要望を伺ったり、ホームからの返事としての報告をさせていただいたりしている。また家族会の報告は運営推進会議・職員会議でもしている。	
			(外部評価) 利用者には日々のケアの中で意見や要望を聞いている。また家族には家族会や訪問時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方で訪問が少ない家族には電話等で連絡したり、アンケートを送付したりして把握するように努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回 改善シートを実施し、日頃気になっている事、改善してほしいことなど記入し、代表者に提出している。代表者は、全員の内容を検討し、職員会議の際に意見に対して回答をしている。代表者も看護師として勤務しているため、日頃の利用者に関することはその都度相談できる体制である。 (外部評価) 管理者は毎月のスタッフ会議、パート会議などで職員の意見や要望を聞くように努めている。意見や要望が出された場合はその都度対応している。代表者は看護師で事業所内の仕事にも従事しており、話しやすく職員から頼りにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回 自己評価を行い、代表者に提出し、評価をしている。日頃の勤務状況などと自己評価により、給与・一時金などに反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内は全員に回覧し、受けた研修があれば、費用の負担・出勤扱いでの受講など負担のない環境を整えてくれている。ホーム内の勉強会も職員会議のあと時間をとり行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のグループホームなどと、定期的に勉強会を行い知識の向上に努めている。包括支援センターでも交流会があり、テーマに合わせ参加スタッフを募り、交流する機会を持っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 最初にご家族が相談に来られますが、入居の前には必ずご本人と面談させて頂き、ご本人の気持ちを受け止めるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族は困った状態で相談にこられており、まずは十分に話をうかがうように努めている。その後ゆっくり時間をとり不安や要望など聞き取りするようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の話などから、ご本人の状態を確認しながら、まずどんな支援が必要かをみきわめ、徐々にほかに必要な支援はないか、探っていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者のできることを見極め、体調等を考慮しながら、できることはお願いし、職員はそばにより添い補佐をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族とのコミュニケーションを大切にし日々の体調の変化や必要物品など電話連絡を取り合いながら、密に連携し支えている。また行事にも参加していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時にはプライバシーが保てるように、居室や応接室での面会や、外出時安心して外出できるように準備をサポートしている (外部評価) 事業所には利用者の知人や友人の訪問が多く、職員は温かく見守っている。利用者の希望するお墓参りや馴染みの場所に、家族の協力を得て外出できるよう職員は支援をしている。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングでの席や、行事・レクリエーションでの居場所など、常に利用者同士の関係に気を配っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、夏祭りのときにはボランティアで参加いただける方もあり、その方の知人の相談なども受けることがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中での様子や会話の中から、気持ちをくみ取ったり、ご家族にうかがったり、何が本人にとって一番よいかスタッフ全員が意見を出し合っている。	
			(外部評価) 職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取るよう努めている。困難な場合は家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作を汲み取り、職員は「利用者がどう思っているのか」を常に考えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族や利用者本人から伺ったり、昔の写真を見せていただいたりして会話を引き出し、情報収集につないでいる	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の落ち着ける場所、行動、時間の過ごし方ができるように努めている。昨日できなくても今日はできることもあるのできめつけたり、あきらめたりしないように気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者に関わるスタッフの意見、担当者会議での検討、本人・家族との話し合いなど、定期的にモニタリング、アセスメントを行い、プランを立てている。変化があれば、すぐ見直しをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合いを行い介護計画を作成している。また個別記録の様式を工夫し、介護状況が把握できるよう努めている。毎月モニタリングをして評価を行っている。職員全員の意見も聞き取り反映できるよう、ミーティング時の話し合いや記録など確認を大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 新しく知った情報や状況などは細かく会話内容なども記録している。新しいケアやうまくいったことなど申し送りの時に報告しあい共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者全員が同じようにはなく、各家庭の事情や状況にもできる限り合わせて対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 高校の介護実習生の受け入れは利用者のいい刺激になっている。夏祭りやクリスマス会など外部との関わりは社会とのつながりを自覚できる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回、定期的にかかりつけ医の往診があり、利用者の 状態把握をして頂いている。急な発熱等、容体変化が あるときには、ご家族に連絡の上、かかりつけ医への 受診支援を行っている。	
			(外部評価) 家族の希望によりほとんどの利用者が協力医をかかり つけ医としている。協力医による月2回の往診等のほ か、状態変化時など迅速に対応できる体制が整って おり、利用者や家族は安心して利用することができる。 協力医以外のかかりつけ医や専門医は職員が同行し、 安心して受診することができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 代表者が看護師として勤務しており、日頃から、個々 の利用者について、職員がすぐに相談したり、指示を 受けたりできる体制にあり、かかりつけ医への連携に 繋げている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホーム独自の情報提供書（経過表）を持参 し、ADLや入院に至る経過がわかるようにしてい る。病院に伺い病院関係者と相談しながら、ご家族の 要望も伺いながら早期退院となるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化しターミナルを検討する時期となれば、主治医 とご家族、職員で話し合いの場を持ち、ご家族の意向 を確認し、現状での対応できる状況を判断する。ご家 族、職員と会議を行い、支援につないでいる。	
			(外部評価) 入居時に、利用者や家族に看取りの方針を説明し、意 向を確認している。利用者の状態変化時の段階に応じ て、医師、家族、職員で話し合いを重ねながら、関係 者全員で支援していくところを確認し共有している。夜 間の緊急時には、代表者が事業所に待機し、対応でき るように体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的にAEDを使用した訓練を実施し、急変時に落ち着いて行動できるように、努めている。ホームにもAEDが設置してあり、地域の方にも周知していただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回訓練を行っており、運営推進会議でも避難訓練を行い、消防、地域の防災士から意見や指導を受けている。訓練の際にはその都度設定を変えて行っているが、実際の災害時には訓練のようにスムーズにはいかないであろうと不安はある。	
			(外部評価) 年2回、消防署や警備会社の立会いのもと避難訓練を実施している。また利用者の各部屋には防災ヘルメットの完備や備蓄等も用意している。利用者の安全が確保されるよう職員全員で防災意識の再確認を行っている。訓練は地域住民と一緒にしているが参加が少ないため、多くの住民を交えて訓練が行えるよう声かけをするなど努めており、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組む姿勢が伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊重について会議で話し合い職員全体で一人一人のプライバシーを損なわない声掛けに努めている。良い声掛けができていないときには、職員同士注意し合っている。	
			(外部評価) 職員は日々の生活の中で、利用者の不快感や羞恥心に気を配ながら、声かけや対応をするように心がけている。また、利用者の尊厳を損なうことのないよう対応しており、一人ひとりの人格を尊重して支援している。利用者の希望に応じて、同姓介助するなど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の自己決定を尊重し、起床時間をずらしたり、日中はご本人のしたいことをしていただいている。無理やりではなく、利用者をよく観察し、自己決定しやすいように声掛けしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間をずらせたり、食事時間を遅らせたり、ご本人のペースで生活していただいている。日中の過ごし方もご本人の意向を優先し、職員がそばで見守るように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2か月に1度訪問理美容の来所があり利用している。朝の洗面時には、鏡を見ながらブラシで髪を整えていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の状態に合わせ、普通食、刻み食、ミキサー食の対応をしている。職員は利用者と一緒に食事をしながら会話をしたり、介助の必要な方の支援をしている	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。また利用者は食事前になると台を拭くなど、できることを自然に手伝っている。介助の必要な利用者には職員が寄り添い、適切な支援をしている。利用者の好みのメニューを食事に取り入れたり、代表者が作ったおやつを食べたりすることは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量の少ない人は主治医と相談して、高カロリー飲料などで補っている。水分量は記録をとり、1日にひつような水分が摂れているか確認しながら勧めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で磨ける方は磨いていただくが、磨き残しがあるため職員が磨き直しをしている。歯間ブラシやモンダミンなども使用している。磨けない方は口腔ケア用のウェットで清拭している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターン、力を理解し、声掛けを行い、可能な限り、トイレで排泄できるように支援している。ポータブルトイレは置かず夜間もトイレに誘導している。	
			(外部評価) 職員は排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するように努めている。夜間のみおむつを使用するなど一人ひとりに合った排泄支援をしている。トイレには利用者の転倒防止や立ち上がりやすいように適切に手すり等が取り付けられ、安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の便秘の状態、原因を理解し、日常生活の中で、飲食物を工夫したり、運動を行うなど予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応、入浴日は決めているが、身体状況・体調・利用者の希望などにより1・2階で協力しながら、臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 週3回を基本に、利用者の希望により入浴することができる。入浴の苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。浴室にはリフトを完備しており、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人が安心して気持ちよく休息・睡眠ができるよう、環境を整えたり、1日の個人の生活リズムに合わせた支援を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れ、誤薬のないように個人の薬箱の内側に服薬内容を記入し、確認している。服薬前後も別々のスタッフが間違いのないことを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節にちなんだ行事や催しを楽しんでいただくように工夫している。食事時間以外に空腹を訴える方には、個別にお菓子など食べていただくこともある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人、希望を聞き、できるだけかなうよう個別に支援している。地域の方とは夏祭り、クリスマス会、地域の行事などで交流を深めている。	
			(外部評価) 職員はユニット毎や年間行事での外出のほか、利用者の希望により外出できるよう支援している。また、利用者は玄関先の庭で、外気浴を楽しむことができる。事業所周辺の散歩時に地域住民と挨拶や会話をするなど、地域住民との関わりが深まるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時、個人でお金を持ち買い物をできる機会を作っている。ご本人が管理できる場合はご本人に任せている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望によりご家族に電話をかけたり、手紙が届き読めない場合には、職員が代読したりしている。また担当職員から年賀状を送ったりもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングなど明るすぎる時には電気を消して調整したり、大きな物音をたてないように注意している。また職員が季節の花を持参し、洗面所やリビングに飾り、話が広がることもある。	
			(外部評価) リビングの広い窓からは自然な光が差し込み気持ちよく感じられ、日頃から清潔や臭気気をつけており、アロマの香りを楽しめるよう工夫をしている。利用者が芸術療法で作った品々が玄関や壁に飾られて、訪問者の目を引き付けている。リビングや廊下は整理整頓され、環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるような空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング、洗面所前にはソファが置いてあり、座ったり、横になったり体調に合わせて利用できる場所がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テレビや机などご本人の必要なものを配置したり、植物を置いたりして、趣味など活かしている方もいる	
			(外部評価) 居室にはエアコン、タンス、ベッドが備え付けられている。利用者の中には、一畳分の畳を敷いて座れるようにするなど、思い思いのレイアウトを楽しむことのできる工夫をしている。また、使い慣れたタンスや小物、仏壇等も持ち込むことができ、家族との写真を飾るなど居心地よく落ち着いて生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自の居室前に名前と顔写真の入ったプレートをかけ、居室の確認が出来るようにしている。また居室内のタンスやベッドの配置は一人一人の身体状況や動線を考慮している	